

# 第 3 部

緑のまちづくり  
と自然再生

# 第3部 緑のまちづくりと自然再生

## 第1章 緑化の推進

### 第1節 保存樹木補助制度

#### 1. 補助制度の目的

良好な自然と生活環境を確保するため、樹木の保全と緑化を推進し、緑あふれる住みよいまちづくりを図ることを目的とする。

#### 2. 補助金額

保存樹木	1本当たり	4,000円 (限度60,000円)
樹林・竹林	1平方メートル当たり	60円 (限度60,000円)
生け垣	1メートル当たり	300円 (限度60,000円)

#### 3. 指定状況

表 3-1-1 保存樹木等指定状況

	保存樹木		樹林・竹林		生け垣	
	件数	本数	件数	面積(m <sup>2</sup> )	件数	長さ(m)
平成24年度	95	527	2	1,582.72	46	2,367.39
平成25年度	91	509	2	1,582.72	45	2,336.69
平成26年度	92	515	2	1,582.72	51	2,720.09
平成27年度	96	522	2	1,527.00	58	3,217.99
平成28年度	96	514	2	1,527.00	54	2,864.96

### 第2節 建築物屋上等緑化・生け垣等設置奨励補助制度

#### 1. 補助制度の目的

緑豊かな景観の創出と都市環境の改善を推進するため、建築物の屋上等の緑化、生け垣、緑化フェンス、花壇や駐車場緑地帯を設置する者に対し補助を行う。

#### 2. 補助金額

表 3-1-2 補助金額

補助対象	補助金額
屋上緑化・ベランダ緑化	対象工事費1平方メートル当たりの金額(上限2万円)の3分の2(限度50万円)
壁面緑化	対象工事費1平方メートル当たりの金額(上限1万円)の3分の2(限度50万円)
生け垣・緑化フェンス・接道部緑地帯	設置費用1メートル当たりの金額(上限1万円)(限度20万円)
駐車場緑地帯	設置費用1平方メートル当たりの金額(上限1万円)(限度20万円)

### 3. 補助実績

表 3-1-3 補助実績

	屋上等緑化		生け垣等設置	
	件数	面積(m <sup>2</sup> )	件数	長さ(m)
平成 24 年度	1	8.50	3	24.22
平成 25 年度	2	126.20	5	81.90
平成 26 年度	0	0	4	90.20
平成 27 年度	1	41.73	5	64.70
平成 28 年度	1	27.50	6	68.40

## 第 3 節 苗木の無料配布

### 1. 事業の目的

緑を自ら管理することにより、緑や花への愛着と日々の生活環境における緑の必要性を認識し、緑化の推進を図る。

### 2. 配布状況

#### (1) 結婚・誕生・新築記念樹

表 3-1-4 記念樹配布本数

単位：本

	結婚	誕生	新築	合計
平成 24 年度	408	662	128	1,198
平成 25 年度	376	607	125	1,108
平成 26 年度	296	629	115	1,040
平成 27 年度	295	554	85	934
平成 28 年度	272	510	90	872

#### (2) 苗木の無料配布

表 3-1-5 配布本数

単位：本

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
配布本数	1,200	1,000	640	820	500

#### (3) とだグリーンウェイブ

表 3-1-6 活動実績

	参加団体	参加者数	場所提供団体数	植樹本数
平成 26 年(※)	5 団体	144 名	2 団体	43 本
平成 27 年(※)	14 団体	164 名	2 団体	182 本
平成 28 年(※)	19 団体	259 名	2 団体	74 本

※実施期間が 3 月 1 日から 6 月 15 日のため年度をまたぐ集計である。

## 第2章 水と緑のネットワークの推進

### 第1節 水と緑のネットワーク形成

#### 1. 水と緑のネットワーク形成（戸田市地区）プロジェクト

##### (1) 水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）基本構想

国土交通省関東地方整備局・埼玉県・戸田市で構成する水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）推進会議で、平成21年5月に基本構想を策定した。

##### ① 水と緑のネットワーク形成とは

貴重な自然を保全するとともに、分断された自然をつなぎ、野生生物の移動経路の確保や、自然の多面的機能を回復させることによって、豊かな自然を再現し、潤いのある質の高い都市環境の実現に向けた取り組みである。この取り組みは、生き物を守るための戦略的な方法であるとともに、人間が持続的に豊かな生活を送るためのランドデザインの基本となる。

##### ② 目的

・地域の多様な関係主体の参加によって地域固有の在来植物にも配慮した植物の育成・植栽等を実施することにより、流域の自然を再生し、多種多様な動植物の生育・生息できる場をつくり、水と緑のネットワークの形成を図る。

・河川、道路、公園、公共施設、民有地等との連携により、広域的な水と緑のネットワーク形成を図る。

##### ③ 基本方針

- ・自然と人が共生するエコロジカルネットワークの推進
- ・効率的な手法による自然環境・景観の保全・再生・創出
- ・地域固有の植物の保全・育成の推進
- ・地域の多様な関係主体・事業の連携による取り組みの推進

##### (2) 水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）行動計画

水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）基本構想の実現を図るため、平成23年3月に行政、市民・事業者の行動計画及び、重点地区計画を策定した。

##### ① 指標種の選定

生き物の視点に立った自然環境を評価するために、代表的な生物種を選定した。

表 3-2-1 行動計画における指標種

	指標種
樹林地	シジュウカラ、メジロ
草地	ギンイチモンジセセリ等のセセリチョウ類
水域（河川等の流水域）	カワセミ
水域（池、プール等の止水域）	アジアイトトンボ等の止水域に生息するトンボ類

##### ② 重点地区計画

1. 彩湖・道満グリーンパーク・美女木地区
2. 笹目川沿川地区
3. 戸田中央・菖蒲川沿川地区

### (3) 生き物マップづくり

水と緑のネットワーク形成プロジェクトの進捗状況を評価する指標として、市内の生き物の生息状況を把握する。また、日常自然と接する機会が減りつつある児童・生徒たちに生き物マップづくりを通して自然とふれあう機会を創出することを目的として実施。

平成24年10～11月に市内小中学校の協力を得て、学校区ごとに秋の生き物調査を行った。調査結果を基に生き物データベースを作成し、平成26年度に地図情報システム「いいとだマップ」で公開した。また、平成26年7月～8月には、夏の生き物調査を行い、平成27年度に「いいとだマップ」で公開した。

### (4) 樹木剪定技術講習会

庭木等の剪定を通じて緑に対する市民の意識を高めるため、また緑化推進団体の組織化と育成を進めることを目的に、毎年1回、市内環境空間や公園において、樹木剪定技術講習会を開催している。

平成29年3月7日 大前緑地

参加者19名

### (5) イケチョウ貝による水質浄化活動

日本唯一の静水コースである「戸田ボートコース」。全国のボート競技者にとって憧れの聖地となっているが、近年は水質の悪化が課題となっている。

そこで、市は埼玉県ボート協会や埼玉大学などと協力し、「戸田ボートコース水質浄化実行委員会」を設立し、イケチョウ貝による水質浄化活動に取り組んでいる。イケチョウ貝は、経費や生態系への影響も少なく、水質浄化に効果がある。また、外とう膜というイケチョウ貝の一部を切り取って殻の中に入れて、それを核として色彩豊かな淡水産真珠をつくることができる。

表 3-2-2 イケチョウ貝投入数(平成18年度から)

単位：個

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年	投入累計
稚貝投入数	500	550	520	800	850	約8,235

表 3-2-3 淡水産真珠アクセサリ教室参加者数

単位：人

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
参加者	25	10	23	30	13

## 2. 戸田ヶ原自然再生事業

### (1) 戸田ヶ原自然再生事業全体構想

平成21年3月に戸田ヶ原自然再生事業の目標と実現方策などを定めた全体構想を策定した。

- ① 目標1 多様な野生の生きものを育む戸田ヶ原を再生する
  - 1. サクラソウなどの野生の草花が彩る湿地の再生
  - 2. キツネの親子が安心して暮らせる自然の保全と再生
  - 3. カヤネズミがゆりかごをつくる草はらの保全と再生
  - 4. ミドリシジミの舞う林の保全と再生
  - 5. カワセミが子育てをする水辺の保全と再生
- ② 目標2 戸田ヶ原を通じて人と自然、人と人との交流を再生する
  - 1. 子どもたちが身近に自然と触れ合う場と機会を提供する
  - 2. 市民が集う、世代を超えた交流の場に
  - 3. 企業の社会貢献活動の場に
- ③ 目標3 住みたい・住み続けたいまちづくりに活かす
  - 1. 市民が誇りと愛着を持つまちづくりに活かす
  - 2. 戸田ヶ原を通じてまちの魅力を発信する

### (2) 戸田ヶ原自然再生事業実施計画

戸田ヶ原自然再生事業全体構想の実現を図るために、平成22年3月に戸田ヶ原を構成する5つの再生計画を策定した。

- ① 湿地再生計画
- ② キツネの生息地再生計画
- ③ カヤネズミの草地再生計画
- ④ ミドリシジミの樹林再生計画
- ⑤ カワセミの水辺再生計画

### (3) サクラソウの生育状況

表 3-2-4 サクラソウの生育状況 (第1号地)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
植栽株数 (2月)	1,500 [2,910]	2,000 [4,910]	2,090 [7,000]	0 [7,000]	0 [7,000]
生育株数 (4月)	1,089	2,382	5,682	8,707	12,034
開花 (4月)	267	561	1,546	2,366	3,129

[ ]内は累計

戸田ヶ原自然再生エリア第1号地は、平成21年度にサクラソウの植え付けを開始した。

年間を通し、月に1回程度で、戸田ヶ原サポーターと連携した管理作業を実施し、その中で外来植物の除去や除草を実施。

平成26年の調査で、サクラソウの生育株数が植え付けた株数を上回り増加傾向にあることが確認された。

表 3-2-5 サクラソウの生育状況（湿地再生区域 F）

	平成 28 年度
植栽株数 (2 月)	0 [2,000]
生育株数 (4 月)	1,853
開花 (4 月)	660

平成 27 年度にかつての戸田ヶ原がイメージされる、より広域な湿地を再生していくべく、イオンスタイル北戸田、イオンモール北戸田の協力を得て、サクラソウの植え付けを開始した。

今後は、年に 2 回程度、同社と連携した管理作業を実施し、その中で外来植物の除去を実施する予定。

#### (4) ハンノキ等の植樹

ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて育ち、成虫は、アカメガシワなどの花の蜜を吸うため、計画的にハンノキ等の植樹を実施。

平成 28 年 1 月 27 日 浦和実業学園生徒とハンノキ 39 本、アカメガシワ 2 本、ネムノキ 5 本を植栽。

#### (5) 戸田ヶ原自然再生の普及広報

##### ① パネル展示

戸田市役所庁舎 平成 28 年 3 月 28 日～4 月 16 日  
 戸田市立図書館 平成 28 年 3 月 28 日～4 月 16 日  
 彩湖自然学習センター 常設展示

##### ② イベント

- ・戸田ヶ原ガイド講習(平成 28 年 4 月 2 日)
- ・市制施行 50 周年記念戸田ヶ原サクラソウ祭り(平成 28 年 4 月 17 日)
- ・野の草花講座 (平成 28 年 10 月 25 日)
- ・野の草花植え付けイベント(平成 28 年 11 月 17 日)
- ・みんなでミドリシジミの林づくり(平成 28 年 12 月 27 日)
- ・サクラソウポット苗づくり(平成 29 年 1 月 25 日)
- ・サクラソウ植え付けイベント(第 1 号地)(平成 29 年 2 月 4 日)
- ・サクラソウ株分け体験(平成 28 年 12 月 20 日、平成 29 年 2 月 16 日)
- ・とだみちゃん出張授業(新曽小学校 3 年生対象)(平成 28 年 10 月 13 日)

##### ③ 戸田ヶ原自然再生キャラクター

平成 24 年に戸田ヶ原自然再生事業の取り組みを多くの方に知ってもらい、親しみを持ってもらえるようにキャラクターを作成。愛称を一般公募して、戸田市の自然を見守る妖精をイメージし、戸田ヶ原の『とだ』と、見守るの『み』、美しい『み』という意味を込めた『とだみちゃん』に決定した。平成 25 年 8 月に着ぐるみを作成し、PR のため市内外のイベントに出演した。「ゆるキャラグランプリ 2016」にも出場し、9,085 票で全体 270 位(1,421 キャラ

クター中)、県内24位(87キャラクター中)となった。



戸田ヶ原自然再生キャラクターとだみちゃん

## 私たちの生活を支える 生物多様性

「生物多様性」とは、地球上にさまざまな生き物が存在し、これらの生命の一つひとつに個性があり、支え合って生きていることをいいます。

「生物多様性」があることで、きれいな空気や水、適度な温度や湿度、衣食住のもととなる資源など、私たちが生きていく上で欠かせない「自然の恵み」が産み出されます。

市内においても、彩湖・道満グリーンパークや後谷公園など、まとまった緑がある場所では、涼しさや、鳥のさえずりに安らぎを感じたりすることができます。これも「自然の恵み」といえます。

しかし、人間活動による影響が主な要因で、「生物多様性」は各地で危機的な状況にあります。



街中の緑も安らぎを与えてくれます。



ニチニチソウの成分から抗がん剤が作られます。

## 〈水と緑のネットワーク形成プロジェクト〉

市では、豊かな自然が残る彩湖・道満グリーンパークや公園、住宅の庭などの緑や水辺をつなげて、市内に昆虫や鳥などを呼び込もうという「水と緑のネットワーク形成プロジェクト」を進めています。水と緑のネットワーク形成を進めるには、市民、事業者、市の3者がそれぞれの役割を果たし、連携・協働していく必要があります。

### 市民

- ・市内の生き物を観察しよう
- ・戸田ヶ原など戸田の自然に触れてみよう
- ・自宅に木を植えるなどして、生き物を呼び込もう

### 事業者

- ・敷地内に木を植え、生き物を呼び込もう
- ・戸田ヶ原などの保全作業に参加しよう
- ・生物多様性に配慮した取り組みを進めよう

## 水と緑の ネットワーク形成

### 戸田市

- ・公園や水辺環境を整備し、鳥や昆虫が暮らしやすい環境を整備します
- ・とだグリーンウェイブに賛同する市民に苗木配布・活動支援をします
- ・戸田ヶ原をはじめとする荒川河川敷の自然を、再生・保全します
- ・市民・事業者の活動を支援します



地球のいのち、つないでいこう